

(令和7年度予算分) 地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書 (市町村分) 個票

自治体名 岡山県真庭市
 本事業の担当部局名 総合政策部総合政策課

事業メニュー	結婚_妊娠_出産_子育てに温かい社会づくり・気運醸成事業							
区分	重点メニュー							
関連事業メニュー	3.2.2 地域全体で結婚・子育て、子育てと仕事の両立と多様な働き方を応援する気運醸成							
個別事業名	こどもまんなか社会創造事業				新規/継続 (一般財源での実施も含む)	新規		
実施期間	令和8年4月1日	~	令和9年3月31日	事業開始年度	令和8年度			
総事業費(A)(円)	7,072,600	寄付金その他の収入予定額(B)(円)	0	差引額(A-B)(円)	7,072,600			
対象経費支出予定額(円) ※補助率を乗じる前の額	6,857,600							
費用内訳(円)	区分	諸謝金	賃金	報償費	旅費	需用費	役務費	
	総事業費	100,000	3,629,000	225,000	268,600	0	0	
	対象経費支出予定額	100,000	3,629,000	225,000	53,600	0	0	
	対象外経費支出予定額	0	0	0	215,000	0	0	
	区分	委託料	使用料及び賃借料	負担金	補助金	計		
	総事業費	2,700,000	150,000	0	0	7,072,600		
	対象経費支出予定額	2,700,000	150,000	0	0	6,857,600		
	対象外経費支出予定額	0	0	0	0	215,000		
	○	※上記対象経費支出予定額に本交付金の対象外となる経費は含まれていない。						
	自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け	<p><自治体における少子化対策の全体像>※全事業共通 本市では政策の柱に、地域みんなで子育てを応援する「こどもはぐみ応援プロジェクト」を掲げ、市民の皆さんが安心して妊娠・出産・子育てができるよう取組を進めてきた。 しかし、令和6年には出生数が183人となり、少子化対策が急務である中、地域全体で子育てを支え育むしくみづくりと、効果的に情報を伝えていくことが課題の一つである。また、令和6年の婚姻数が117件で、過去と比べて経年的に低下傾向にあり、緊急に対策を講じる必要がある(平成26年の婚姻数173件)。</p> <p><本個別事業の位置付け> こどもをまちづくりの中心に位置づけ、こども一人ひとりの権利を尊重しながら、安心して育ち、挑戦できる環境を整えるとともに、こどもと大人が共に学び、関わり、未来の真庭市を持続的に発展させるための気運醸成に取り組む。</p>						

個別事業の内容	番号	項目	内容
	1	気運醸成	<p>子育てを社会全体で支える「こどもまんなか社会」の実現に向け、子ども・保護者・地域が相互に理解を深め、子育てを応援する機運の醸成を図るため、以下の取組を実施する。</p> <p>①「こどもガヤガヤ会議」の開催 →こどもが自由な発想で「まちでやってみたいこと」「あったらいいと思うこと」などを制限なく出し合う場を設ける。単なる意見表明にとどまらず、その声を地域や大人が受け止めることで、こどもの挑戦を応援する風土の醸成につなげるとともに、子育て世代を含めた地域全体でこどもを支える意識の形成を図る。</p> <p>②大人向けワークショップの実施 →こどもの権利を「わがまま」ではなく、「こどもが挑戦し、成長することを社会全体で支えるための考え方」であることを共有する。こどもの意見や行動の受け止め方、関わり方について対話を通じて考えることで、保護者や地域住民が子育てを支える主体であるという意識の醸成を図る。</p> <p>③子どもの実態把握 →既存の制度や枠組みでは拾いきれていない声や困りごと、思いを丁寧に収集する。これにより、子育て世帯が抱える課題やニーズを可視化し、地域全体で支え合うための環境づくりや施策検討に活用する。</p> <p>④意見の整理・見える化 →こども自身が「意見を言うことで何かが変わる」という実感を得られるよう工夫する。こども自身が「意見が尊重される」実感を得るとともに、地域や大人が子育ての現状や思いを自分ごととして捉え、子育てを応援する機運の広がりにつなげる。</p>
	2	気運醸成	<p>そのほか、シンポジウムを開催し、こどもや子育て世帯を取り巻く現状や課題、こどもの権利に関する理解を広く発信することで、地域住民や企業等の多様な主体の関心と理解を深める。あわせて、子育てを社会全体で支える必要性について共感を醸成し、子育てを応援する機運の拡大につなげる。</p> <p>また、会場では、展覧ブースによる市内企業の取組等の横展開を図る。</p>
	3		<p>【多様な主体を巻き込む取組について】 自治体や企業等が率先してこどもの意見を受け止め、施策や活動に反映する取組を推進するとともに、その実践事例を広く発信する。これにより、こどもの権利の尊重に対する理解を深め、子育てを社会全体で支える必要性についての共感を市全体へと広げる。 想定として、地域の子育て支援に取り組まれているプレーヤー等(個人、団体、企業等)</p> <p>企業・団体等においては、単なる参加にとどまらず、委員として企画運営に参画するとともに、子育て世帯への具体的な支援を実施する。また、シンポジウムへの登壇やブース出展等を通じて、取組の横展開と機運の拡大を図る。</p>
<p><過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)></p>			

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※全事業共通	KPI項目		単位	目標値(時点)	現状値(時点)
	市内の成婚数		件	145 (R8)	117 (R6)
参考指標 ※全事業共通	項目		単位	直近の実績値(時点)	
	合計特殊出生率			1.56 (R5)	
	婚姻件数		件	117 (R6)	
	婚姻率			3.0 (R5)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標	KPI項目		単位	目標値(時点)	現状値(時点)
	番号	項目			
	(アウトプット)				
	①	「こどもガヤガヤ会議」等への参加こども人数	人	50 (R8)	---
	②	収集したこどもの意見・アイデア数	件	5 (R8)	---
	③	大人向けワークショップ参加者数	人	50 (R8)	---
	④	シンポジウム参加者数	人	300 (R8)	---
	⑤	既存の施策や制度では把握できていなかった声として整理・可視化した件数	件	5 (R8)	---
	(アウトカム)				
	①	交付金事業に対する事業対象者(住民等)の満足度(該当事業に限る。)	%		
	②	希望どおりの結婚に向けて後押ししてくれたと感じた人の割合(該当事業に限る。)	%		
	③	結婚、妊娠・出産、子育てに前向きになったと感じた人の割合(該当事業に限る。)	%		
	④	大人のこどもの権利に対する理解・捉え方の変化※現状値は把握できていないが、本事業を通じて初めて可視化する	%	60 (R8年度)	---
	⑤	こどもが「意見を言ってもいい」と感じている割合※現状値は把握できていないが、本事業を通じて初めて可視化する	%	30 (R8年度)	---
⑥					
⑦					
⑧					